



# 2020年3月期 第2四半期 決算説明会

2019年11月26日  
黒崎播磨株式会社

(証券コード:5352)

  
100年の技術を未来へ

## 1. 2020年3月期 第2四半期連結決算の概要

---

## 2. 通期業績見通し

---

## 3. トピックス


---

## <参考> 当社の概要

---

【本資料中の数値表示について】

特段の注記がない場合、金額表示は表示未満単位を切り捨て、百分率は小数点第2位を四捨五入し小数点第1位までを表示しております。



**2020年3月期 第2四半期**  
**(FY2019上期)**  
**連結決算の概要**

## 業績概況

単位:億円

	FY18上期	FY19上期	対前年同期
売上高	714.9	708.3	▲ 6.5
営業利益	54.3	48.8	▲ 5.4
経常利益	57.6	49.2	▲ 8.4
純利益*1	36.5	31.6	▲ 4.8

## 事業環境

- ・国内粗鋼生産(FY2019上期)は前年比3.0%減の5,067万トン。
- ・世界粗鋼生産(2019年1~9月)は前年比3.9%増の13億9,000万トン。中国・インド等が牽引。
- ・セラミックス事業部の主要顧客である半導体・電子部品業界の市場環境が悪化。ただし、半導体は下期需要回復の兆しあり。

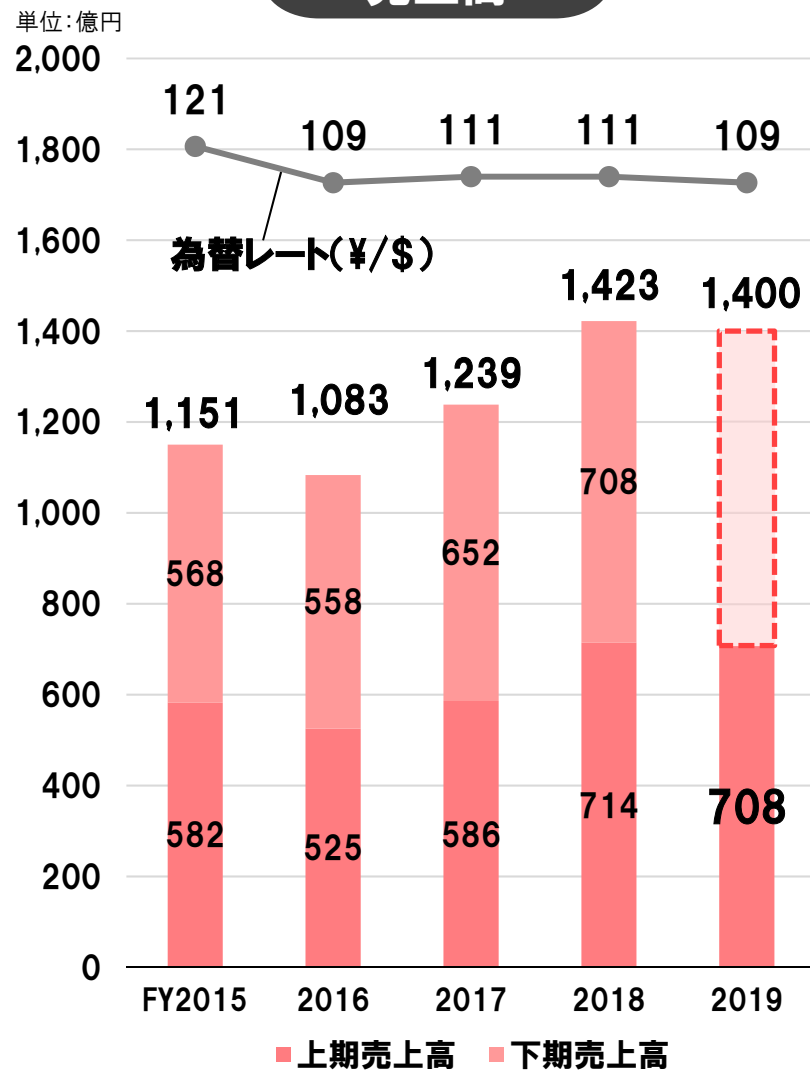
## トピックス

- ◆ 耐火物 :日本の粗鋼減産影響や建設用案件の減少の影響を受けたものの、国内外での拡販・コストダウン・為替メリット等により増収増益。
- ◆ ファーネス :大型工事案件の端境期による売上減少に加え、粗鋼減産による整備作業の減少等により減収減益。
- ◆ セラミックス :顧客業界の在庫調整等によりセラミックコンデンサ向け製品や液晶・半導体向けヒーター等の売上が減少し、減収減益。

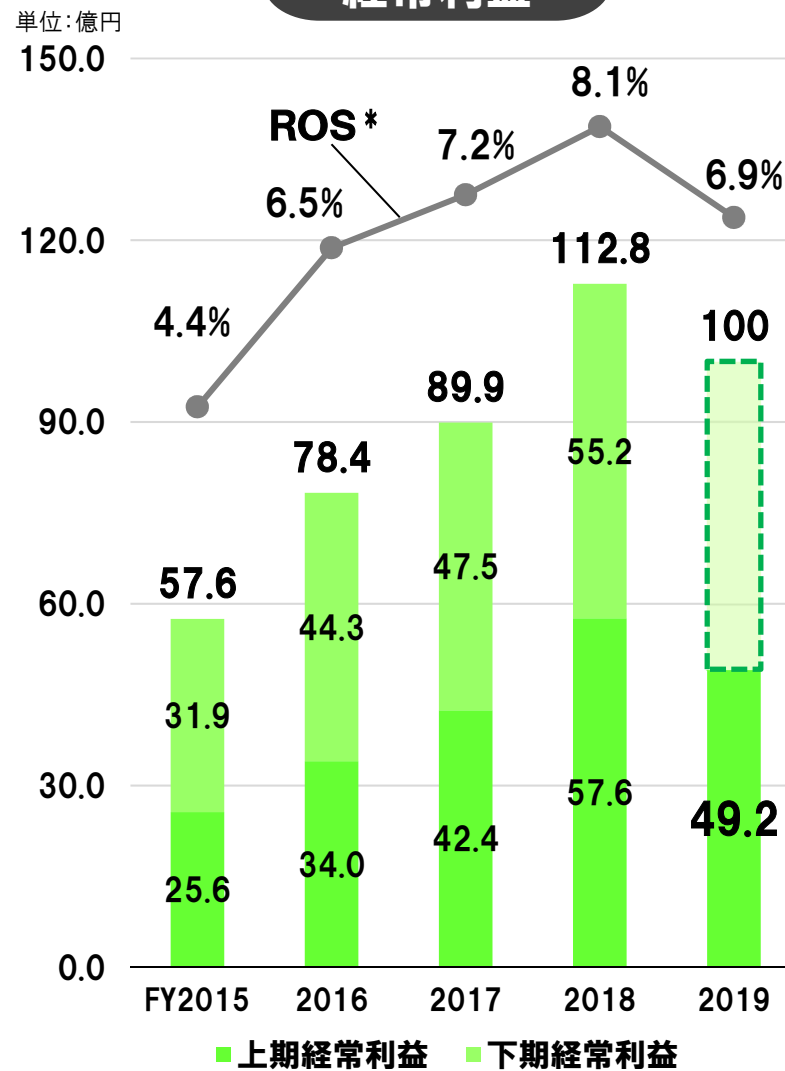
\*1:親会社株主に帰属する四半期純利益

# 上期主要指標推移

## 売上高



## 経常利益

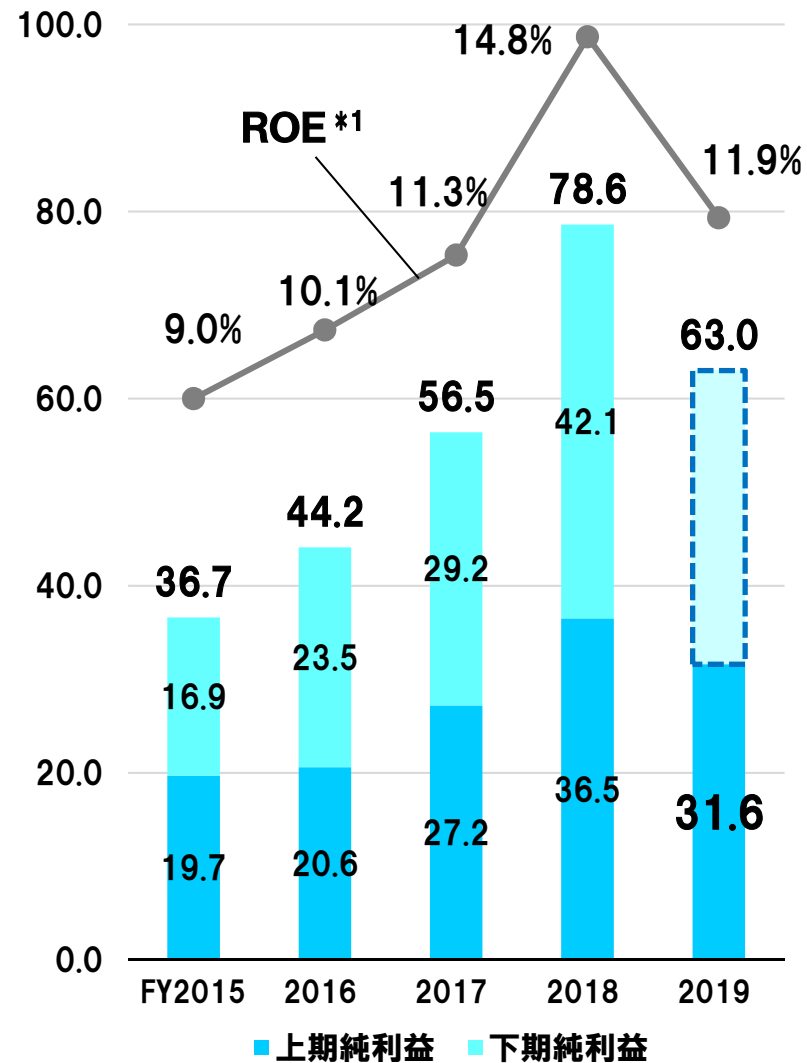


\*通期の売上高経常利益率。2019年度のみ上期数値。

# 上期主要指標推移

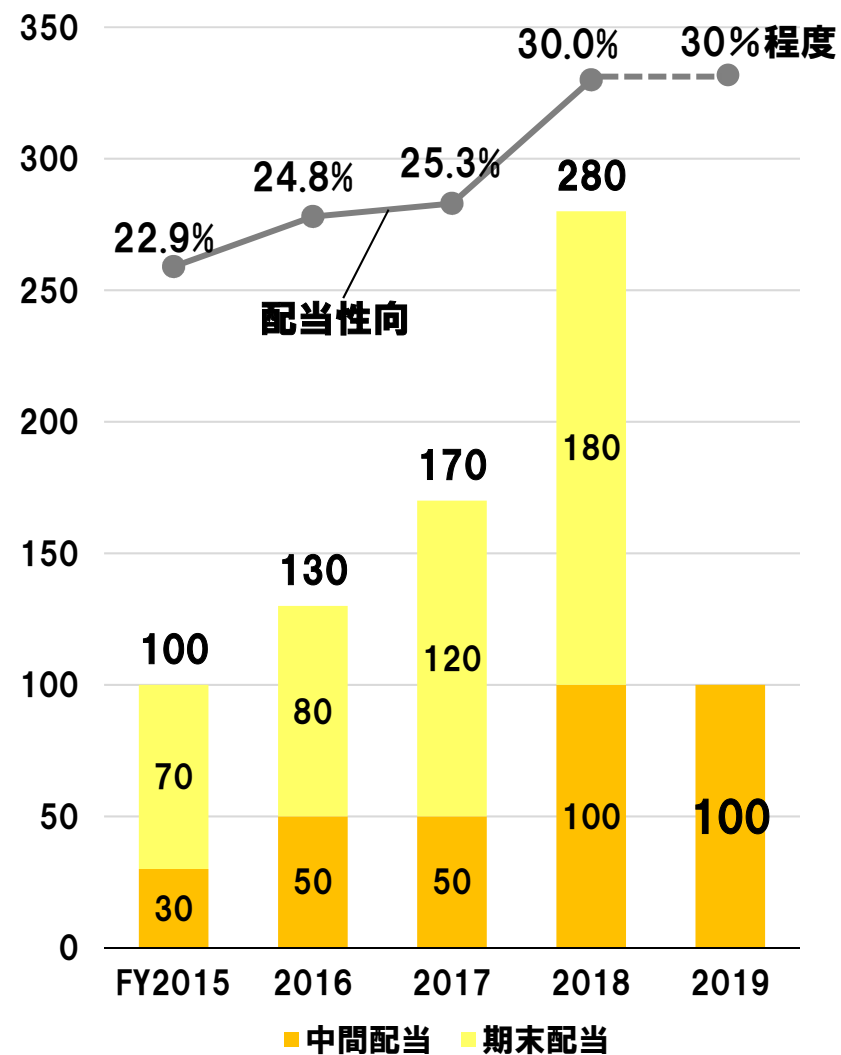
## 純利益

単位: 億円



## 株主配当\*2

単位: 円



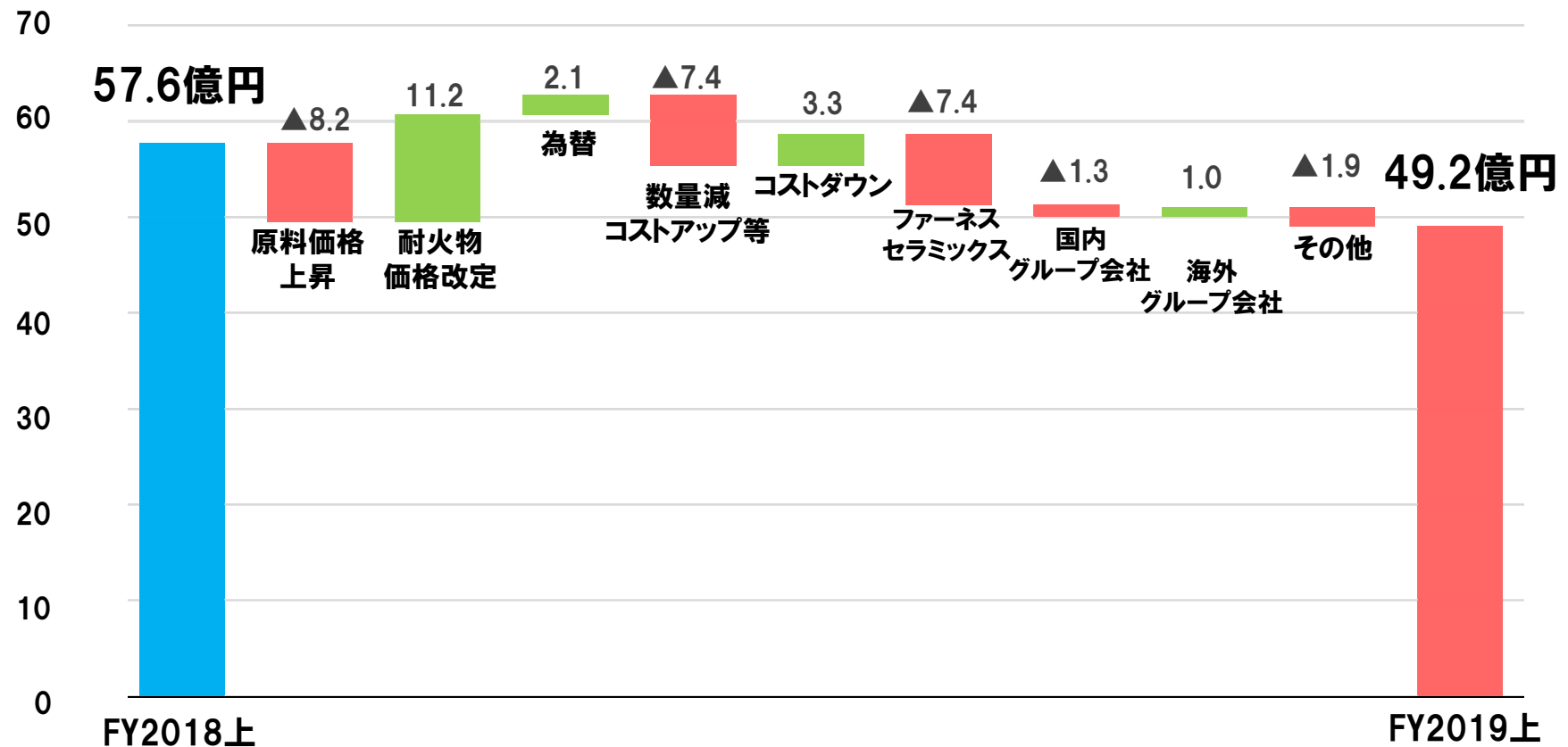
\*1: 通期の自己資本利益率。2019年度のみ上期利益を2倍して計算。

\*2: 2017年10月1日に10株を1株とする株式併合を実施したため、2017年度上期までの配当額は10倍に換算して表示。

# 経常利益増減要因分析 [FY18上 → FY19上]

米中貿易摩擦等による世界経済の減速影響を受け、主要セグメントの需要環境が悪化。耐火物事業は国内外での拡販・原料価格の安定化や為替メリット等で増益も、一過性要因も含むファーンレス・セラミックス事業の減益をカバーできず、連結減益となった。

単位: 億円



# 財務状況

## <貸借対照表の状況>

単位:億円

	19年3月末	19年9月末	対前年度末比	
資 産	1,354.2	1,293.1	▲ 61.0	▲ 4.5%
流動資産	890.9	818.7	▲ 72.2	▲ 8.1%
固定資産	359.2	369.1	+ 9.8	+ 2.8%
投資その他資産	104.0	105.3	+ 1.2	+ 1.2%
負 債	791.8	727.6	▲ 64.2	▲ 8.1%
純 資 産	562.3	565.5	+ 3.1	+ 0.6%

有利子負債残高	359.4	353.5	▲5.9	▲ 1.6%
D / E レ シ オ	0.68	0.66	▲ 0.02	-
自己資本比率	39.2%	41.5%	+ 2.3pt	-

## <キャッシュフローの状況>

	FY2018上期	FY2019上期	当期の主な内容
営業キャッシュフロー	19.7	49.3	税前純利益 +47.0、減価償却費 +14.5 運転費用の減少 +17.1、法人税支払い ▲22.7
投資キャッシュフロー	▲ 12.3	▲40.4	固定資産の取得 ▲40.8
フリーキャッシュフロー	7.3	8.8	
財務キャッシュフロー	▲ 17.2	▲21.0	配当金の支払い ▲15.1

# セグメント別業績

単位: 億円

		FY2018上期	FY2019上期	対前年同期比	
耐火物	売上高	583.9	589.5	+ 5.6	+ 1.0%
	セグメント利益	33.4	36.6	+ 3.2	+ 9.8%
ファーンレス	売上高	86.7	77.8	▲ 8.8	▲ 10.2%
	セグメント利益	10.3	4.5	▲ 5.8	▲ 56.0%
セラミックス	売上高	36.1	32.9	▲ 3.1	▲ 8.8%
	セグメント利益	6.1	3.7	▲ 2.3	▲ 38.7%
不動産他	売上高	8.0	7.9	▲ 0.1	▲ 1.3%
	セグメント利益	4.3	3.8	▲ 0.5	▲ 12.1%
合計	売上高	714.9	708.3	▲ 6.5	▲ 0.9%
	セグメント利益	54.3	48.8	▲ 5.4	▲ 10.1%

※各セグメントの売上高は外部顧客への売上高であり、セグメント間の内部売上高又は振替高は含まれていません。また、セグメント利益は営業利益ベースです。

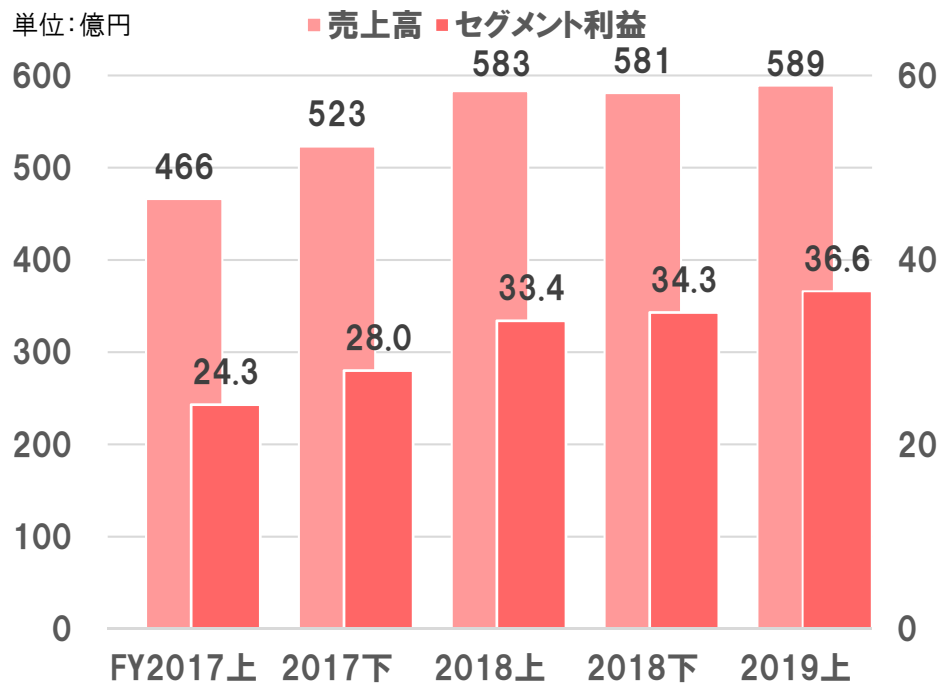
## 業績

単位: 億円

	FY2018上期	FY2019上期	対前年同期比	
売上高	583.9	<b>589.5</b>	+5.6	+1.0%
セグメント利益	33.4	<b>36.6</b>	+3.2	+9.8%

## 推移

単位: 億円



## 業績ハイライト

- 国内粗鋼生産量の減少により耐火物需要は減少したが、拡販やコストダウン、為替メリットにより増益を達成。
- 海外はインドを中心に引き続き成長。今後の需要増に対応し、能力増強を継続して推進。欧州においては2018年12月買収のRefractaria社新規フル連結効果あり。
- 国内生産設備においては備前工場のリフレッシュ工事が竣工。引き続き生産性向上、省力化対応投資を継続。

## 業績

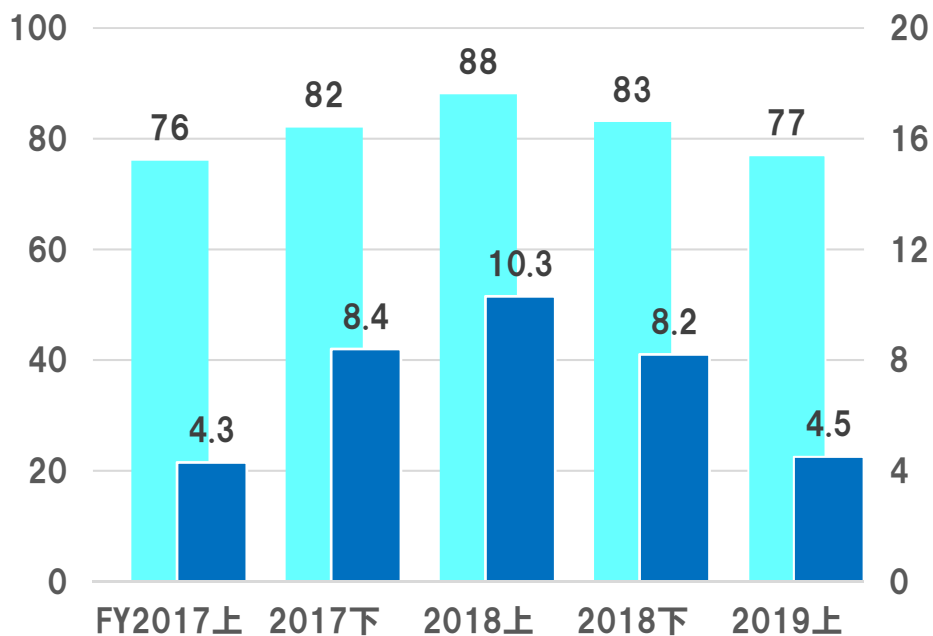
単位:億円

	FY2018上期	FY2019上期	対前年同期比	
売上高	86.7	77.8	▲8.8	▲10.2%
セグメント利益	10.3	4.5	▲5.8	▲56.0%

## 推移

単位:億円

■売上高 ■セグメント利益



## 業績ハイライト

- 大型工事案件の端境期であり案件が減少したことや、粗鋼減産による整備作業の減少等により減収減益。
- 新規参入した八幡製鉄所の整備作業含め、事業領域を拡大中。
- 非鉄金属、セメント業界での工事案件受注増加。来期以降、大型工事、環境案件の受注が控えており、収益拡大に取り組む。

## 業績

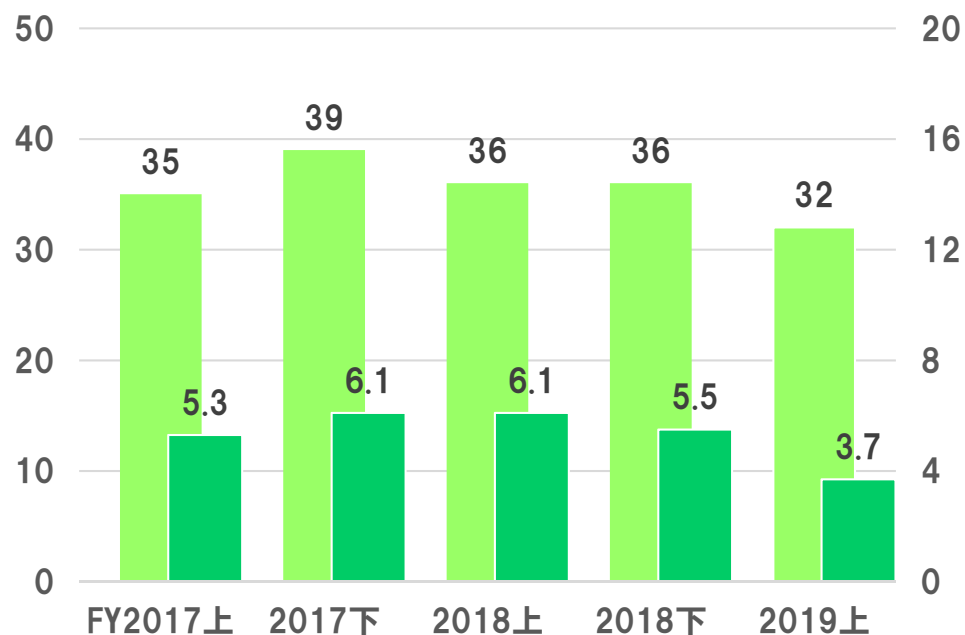
単位:億円

	FY2018上期	FY2019上期	対前年同期比	
売上高	36.1	32.9	▲3.1	▲8.8%
セグメント利益	6.1	3.7	▲2.3	▲38.7%

## 推移

単位:億円

■売上高 ■セグメント利益

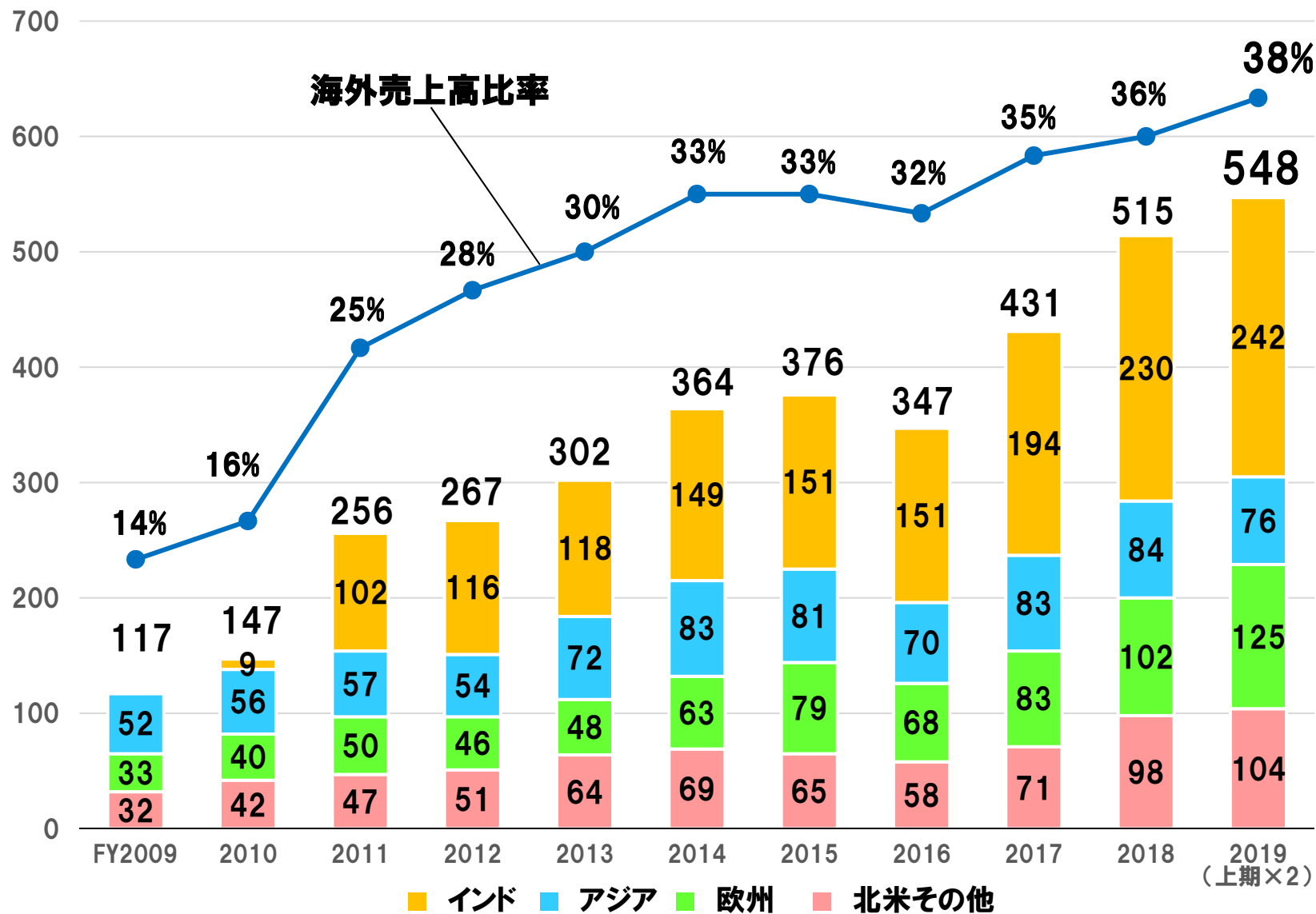


## 業績ハイライト

- 顧客業界での在庫調整影響等により受注が減少し、減収減益。
- 中長期的な需要増に備え、半導体製造装置向け、セラミックコンデンサ向け製品の生産能力増強投資を順次実行。
- 燃料電池向け断熱材等の新規分野を拡大中。

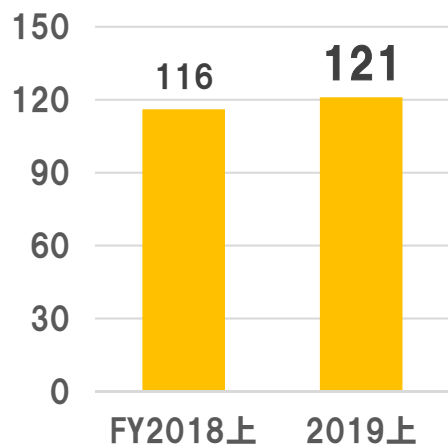
# 海外売上高推移(日本円ベース)

単位: 億円



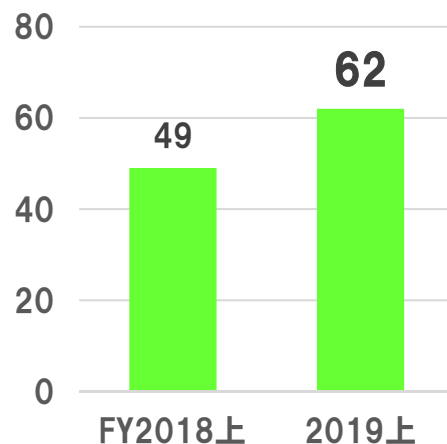
# 地域別上期売上高(日本円ベース、単位:億円)

## インド



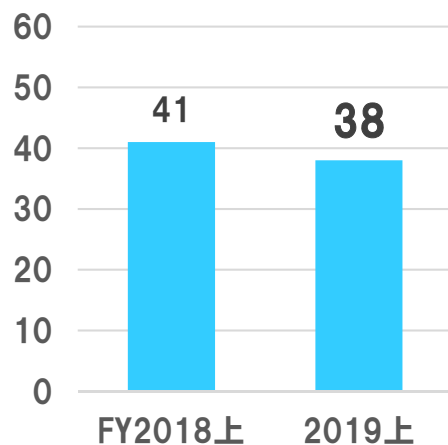
- 粗鋼生産量は順調に伸びており、耐火物需要拡大が継続。
- 高炉用充填材の拡販が進展。
- インドTRL社は最高益を更新。

## 欧州



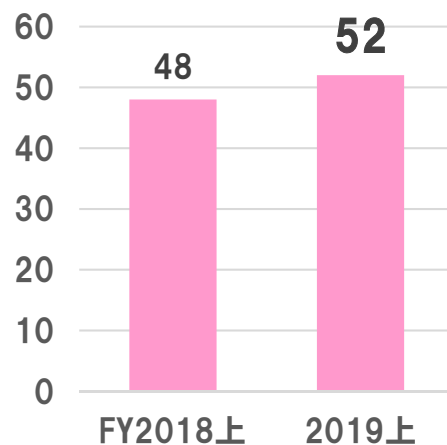
- Refractaria社買収による売上高増加。
- インドTRL社の英国、イタリア向け販売増加。
- 北欧で転炉レンガ拡販により受注シェア拡大。

## アジア



- 中国を除くアジア圏の各国で粗鋼生産量が減少したため、耐火物需要も減少。
- 耐火物需要減少に加え、スポット案件の減少等もあり、減収。

## 北米その他



- 北米:合併企業解消により売上が減少するも、Refractaria社買収による売上寄与により微増。
- その他:南米向け輸出の拡販進展等により増収。

※ SNとは「スライディングノズル」の略称で、溶鋼の流量制御に使用される装置や耐火物。



## **2. 通期業績見通し**

# 2019年度通期業績見通し

世界経済の減速等に伴い、主要事業である耐火物事業の受注減少が見込まれることから、売上・利益共に前回予想から減額。

単位：億円

	FY2018	FY2019	対前年比	
売上高	1,423.4	1,400.0	▲ 23.4	▲1.6 %
営業利益	105.4	98.0	▲ 7.4	▲7.1%
経常利益	112.8	100.0	▲ 12.8	▲11.4%
当期利益	78.6	63.0	▲ 15.6	▲19.9%
R O S	7.9%	7.1%	▲ 0.8pt	—

配当性向30%程度を基本方針とする。

	FY2017	FY2018	FY2019
第2四半期末	50円	100円	100円
期 末	120円	180円	未定
合 計	170円	280円	未定

※当社は2017年10月1日に10株を1株に併合する株式併合を行っています。  
本株式併合を勘案し、2017年度第2四半期末の配当は1株当たり10倍として  
計算した額を記載しています。



## 3. トピックス

## ◆急増する耐火物需要に対応

- 2019年1～9月のインド粗鋼生産は前年比3.5%増の8,418万トン。世界経済が軟調な中、着実に成長。
- 2019年度はTRL社がインドトップシェアを誇るドロマイト煉瓦\*1の能力増強投資が完工予定。生産能力は従来比で約4割の増加。



ドロマイト工場新成形機は稼動を開始。今年度中に新トンネルキルンが稼動開始予定。

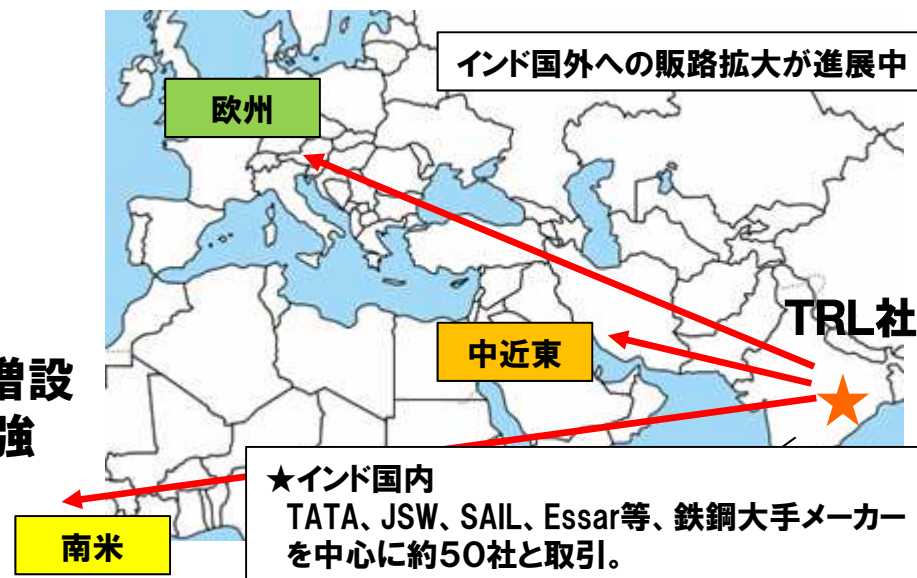


マッド工場新建屋建設中。現工場はフル稼動状態であり、更なる需要増に対応。

## ◆海外拡販も見据え、更なる能力増強投資を実行

- インドとその周辺国を始め、中近東・欧州・南米向けの拡販も進展。
- 特に 塩基性煉瓦\*2、マッド\*3工場のライン増設(いずれも2020年度稼動予定)等の能力増強投資を実行中。

## ◆TRLの販売先多様化



\*1 天然に産出するドロマイト鉱(MgCO<sub>3</sub>・CaCO<sub>3</sub>)を使用した耐火物。製鉄所の鋼やステンレス精錬等に使用される。

\*2 マグネシア(MgO)を主原料とした耐火物。製鉄所の鋼、転炉等に使用される。

\*3 高炉用充填材。「Tap Hole Cray」とも呼ばれる。

## ◆備前転炉工場のリフレッシュ工事が竣工

- ・新開発した転炉用耐火物「Sシリーズ」の受注増加により、生産能力が逼迫。能力増強、品質・生産性・コスト競争力向上等を目的に、生産体制を刷新。本年5月に竣工し、6月から本格稼動を開始。

### ・投資内容

- (1)新大型オイルプレスの導入  
成形サイクルタイムを改善し、生産能力と生産性を向上。
- (2)新建屋の建造と工場レイアウトの最適化  
各工程の最適配置を行ない生産性を向上させると共に、将来的に更なる省力化投資も見込んだレイアウトを実現。
- (3)新製品倉庫の建設  
物流コストの削減や、今後の受注増加へ対応するため、新製品倉庫を建設。



左側の白い屋根の建物が新工場  
右下が新製品倉庫

⇒以上の投資により生産能力を60%以上増強



## **【参考】当社の概要**

<b>商号</b>	<b>黒崎播磨株式会社</b>
<b>資本金</b>	<b>5,537百万円</b>
<b>設立</b>	<b>1918年10月14日</b>
<b>創業</b>	<b>1919年 6月 1日</b>
<b>主要事業</b>	<b>耐火物製造・販売</b>
<b>従業員</b>	<b>連結4,735名、単体1,379名</b>
<b>連結対象会社*</b>	<b>16社（国内5社、海外11社）</b>

\* 持分法適用会社を含む。

## 北九州の地で創業。2019年に100周年を迎える

1919年	黒崎窯業 創業(現・福岡県北九州市八幡西区)
1949年	東京証券取引所に株式を上場
1956年	八幡製鉄(現・日本製鉄)による資本参加
2000年	ハリマセラミックと合併、黒崎播磨に商号変更
2002年	九州耐火煉瓦を子会社化(2012年に合併)
2011年	インド・TATA REFRACTORIES LIMITED (現・TRL KROSAKI REFRACTORIES LIMITED) を子会社化
2019年	日本製鉄の連結子会社となる 6月1日をもって <b>創業100周年</b> を迎える

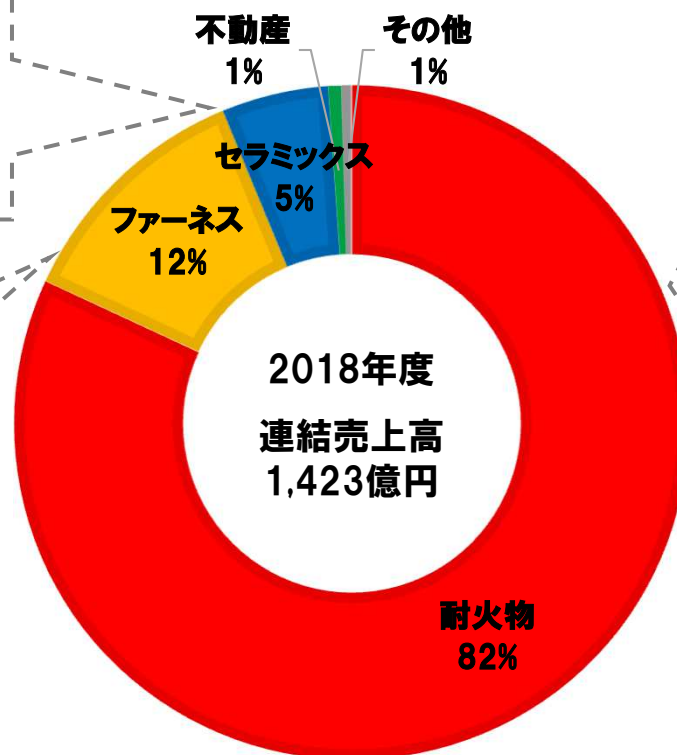
90%以上を耐火物関連事業(耐火物+ファーネス)が占める



精密測定機用基準器



電子部品焼成用部材



2018年度  
連結売上高  
1,423億円

売上百分比

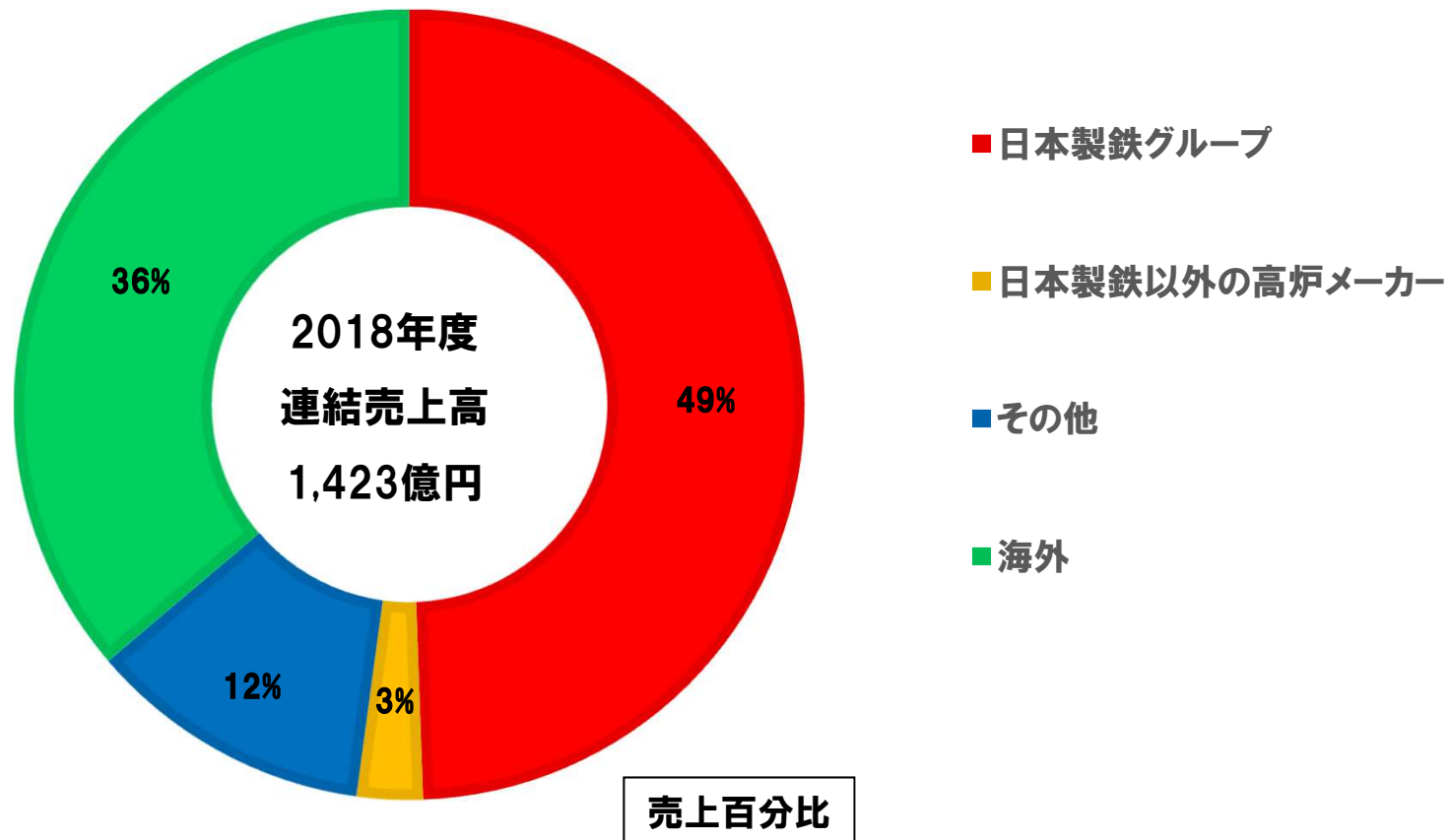


各種耐火物



施工例)プッシャー式ビレット連続式圧延加熱炉

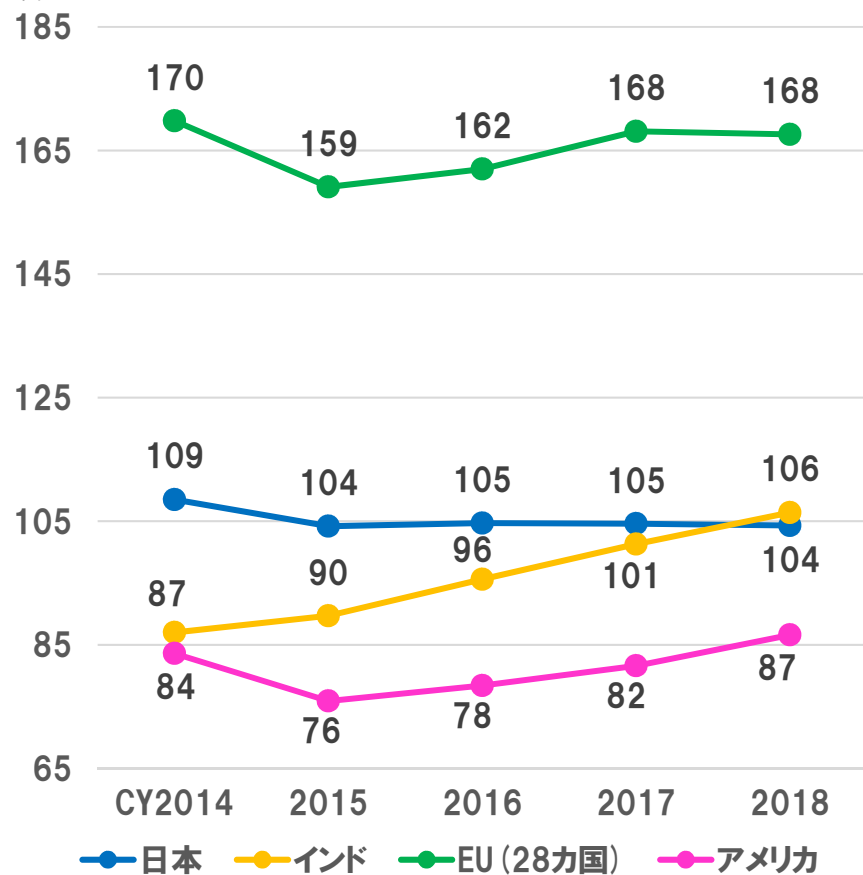
## 納入先は国内外の鉄鋼メーカー



## 国内粗鋼生産は堅調、世界粗鋼生産は過去最高

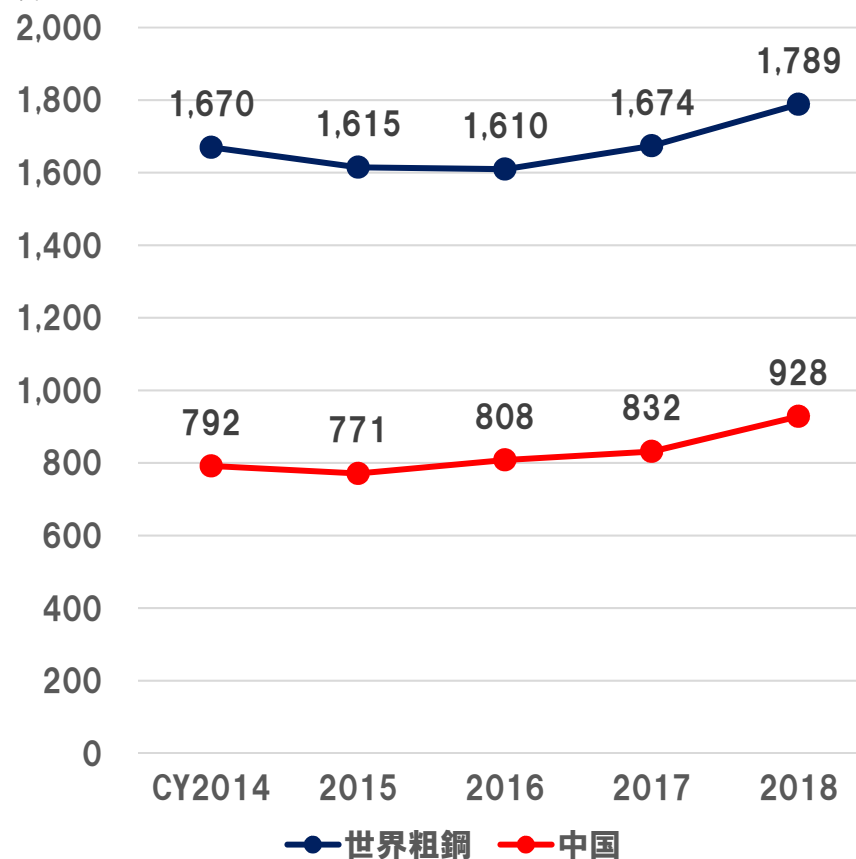
### 日本・インド・EU・アメリカの粗鋼生産

単位:百万トン



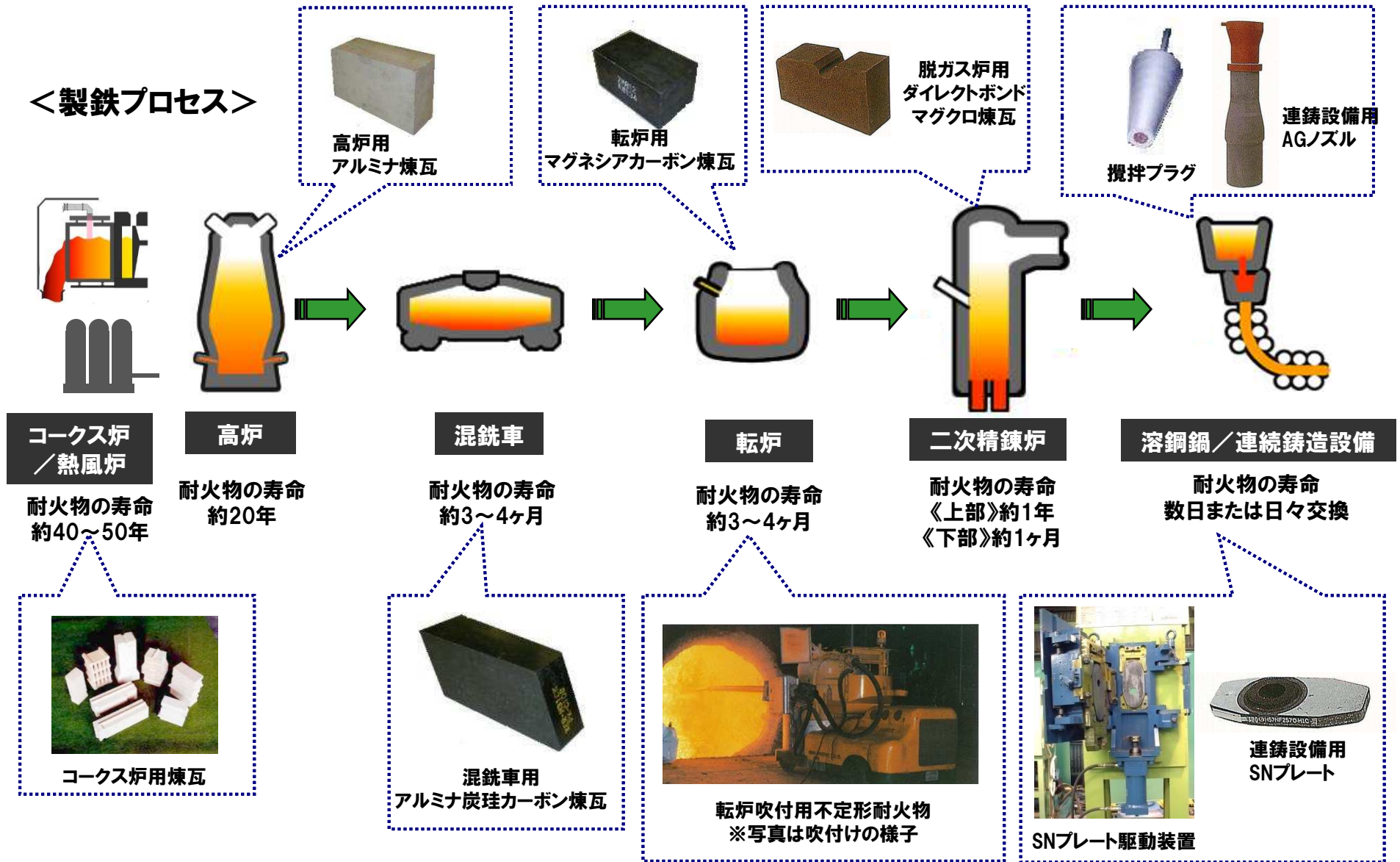
### 世界全体および中国の粗鋼生産

単位:百万トン



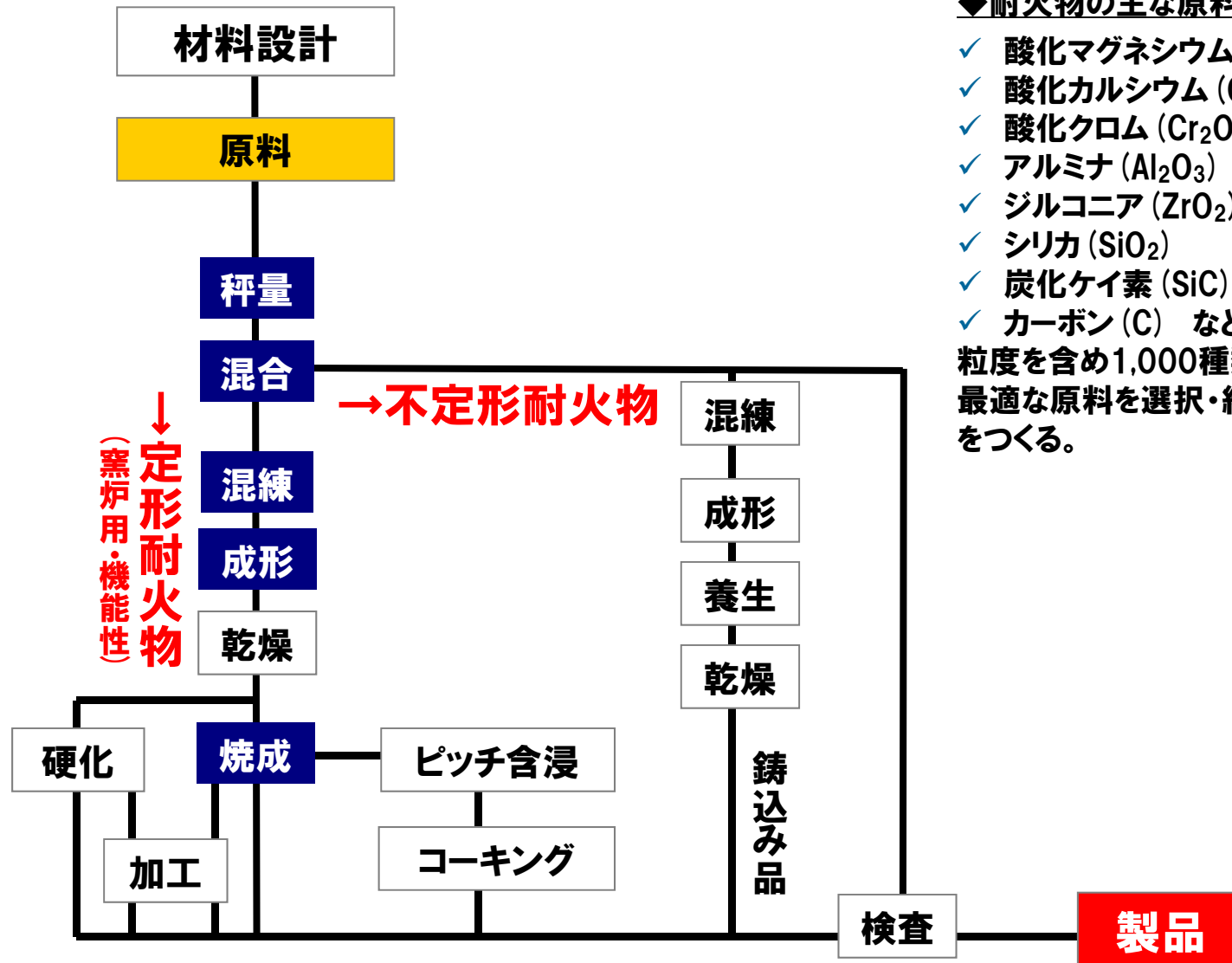
# 耐火物：製鉄に不可欠な基礎資材

## <製鉄プロセス>



# 主な耐火物製品の販売市場／生産拠点

耐火物の分類	窯炉用耐火物	機能性耐火物			不定形耐火物	
		AGノズル 	連続铸造用 SNノズル・プレート 	攪拌プラグ 	補修材／ 流し込み材 	マッド材 
適用される 主な製鉄設備	高炉、熱風炉、 コークス炉、 混銑車、転炉、 二次精錬炉	連続铸造設備	連続铸造設備	溶鋼鋼	高炉、転炉、 溶鋼鋼	高炉
用途(機能)	設備の内張	溶鋼の整流	溶鋼の流量制御	溶鋼の攪拌	補修、 設備の内張	高炉出銑口の 閉塞
黒崎播磨グループの 主な生産拠点	・日本 ・中国 ・スペイン ・インド	・日本 ・中国 ・インド	・日本 ・中国 ・スペイン ・アメリカ ・インド	・日本 ・インド	・日本 ・中国 ・インド	・日本 ・中国 ・インド
黒崎播磨グループの 主な市場	・日本 ・アジア ・欧州 ・北米 ・インド	・日本 ・アジア ・欧州 ・北米 ・豪州 ・インド	・日本 ・アジア ・欧州 ・北米 ・豪州 ・インド	・日本 ・欧州 ・北米	・日本 ・アジア ・北米 ・欧州	・日本 ・中国 ・北米 ・欧州 ・豪州 ・インド



## ◆耐火物の主な原料◆

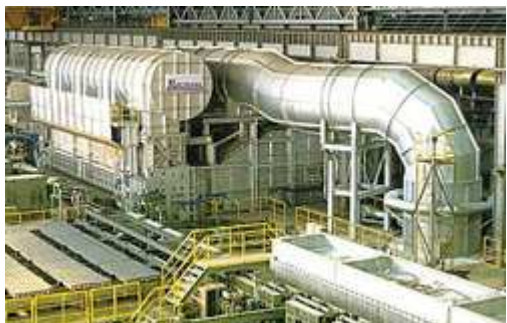
- ✓ 酸化マグネシウム (MgO)
- ✓ 酸化カルシウム (CaO)
- ✓ 酸化クロム (Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)
- ✓ アルミナ (Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)
- ✓ ジルコニア (ZrO<sub>2</sub>)
- ✓ シリカ (SiO<sub>2</sub>)
- ✓ 炭化ケイ素 (SiC)
- ✓ カーボン (C) など

粒度を含め1,000種類以上の原料から、最適な原料を選択・組み合わせてレシピをつくる。

## 省エネルギー、耐久性向上でお客様に貢献

### ●プッシャー炉

▶ ビーム連続加熱炉等



### ●ウォーキングビーム炉

▶ シームレス管再加熱炉等



### ●ウォーキングハース炉

▶ 特殊鋼ビレット連続加熱炉等



### ●耐火物築造工事

▶ 耐火物築造、解体、メンテナンス作業



(混銑車)



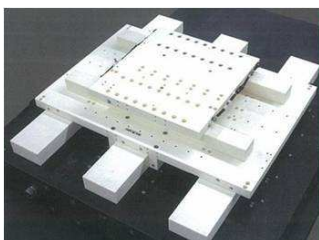
(コークス炉熱間積替)



## お客様の絶え間ない「高性能化」に貢献

### ●精密部品用セラミックス

▶ 半導体製造装置、測定機器、光学機器分野



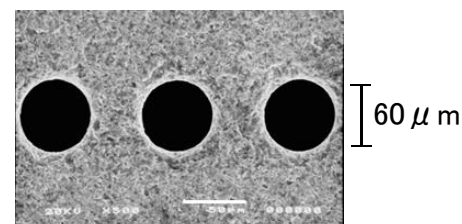
大型形状と精密加工やアッセンブリー技術の強みを活かした精密機械や半導体製造装置向けファインセラミックス。



ゼロ膨張セラミックスNEXCERA™の優れた寸法安定性、環境ロバスト性を活かし、原器や精密測定機器の更正器として適用開始。

### ●マシナブルセラミックス

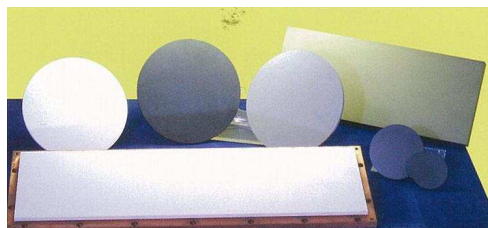
▶ 電子部品製造、産業機械、半導体製造分野



金属加工と同様に加工できる易加工性セラミックス。ミクロンオーダーの微細加工を実現。写真は、小径穴加工(直径60 μm)したマセライトHSPのプロブカード(ウエハーに形成されたICチップの検査治具)。

### ●スパッタリングターゲット材

▶ 電子部品、半導体デバイス分野



電子部品や半導体デバイスを熱や摩耗から守る薄膜を形成する高純度セラミックスのスパッタリングターゲット材。サーマルプリンターヘッド等に適用。

### ●電子部品焼成用部材

▶ 電子部品製造分野



主にセラミック電子部品の焼成工程に不可欠な部材。セラミックコンデンサ分野においては世界でシェアNo.1を誇る。

## 省エネルギー・環境分野で社会に貢献

### ●高機能断熱材

- 製鉄・非鉄、各種工業炉、航空機、自動車分野



断熱性能が静止空気より優れ、既存の断熱材より格段に優れる断熱特性を発揮して、省エネや薄肉化・小型化・軽量化による生産性向上に寄与。

### ●薄型面状ヒーター

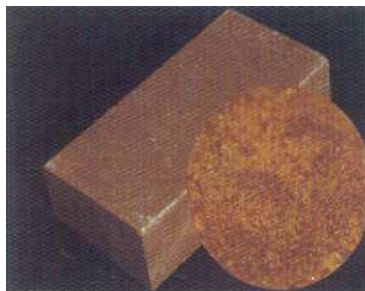
- 液晶・有機EL製造、半導体製造、高性能ヒーターユニット分野



薄い面状ヒーターで優れた均熱性、熱応答性が特長。さまざまな産業分野で生産性向上に寄与する。設計ニーズから対応できて、大小サイズのヒーターを提供できる。

### ●高機能蓄熱材

- 蓄熱暖房分野



抜群の蓄熱特性を有するセラミックス材料で蓄熱暖房機や床下暖房機等に適用される。夜間電力利用により電気エネルギーの有効活用に貢献。

### ●エコ建材

- 舗装・外壁れんが等建材分野



透水、保水等の環境機能を有し、風合いと意匠性を兼ね備えた建材。都市建材リサイクル材を原料に使用する技術をもって循環型都市形成に貢献。

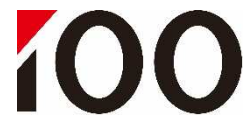


<https://www.krosaki.co.jp/>

本資料は、金融商品取引法上の開示資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載された将来の予測等は、資料作成の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。

従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。



100年の技術を未来へ